

○彼はたゞへつ我が武勇——出會つた二人で、一番生は拍手しながら足踏する。二番生は、圓の内側から一番生を一廻りする。

五

○かたち正していひ出でぬ、「此の方面の戦闘に、二子を失ひ給ひつる——(一)と同じくチェーンを行ふ。  
○閣下の心如何にぞ。」と——出會つた二人で、左手をとつて上にあげ、次に右手をとつて同様にする。

六

○「二人の我が子をそれぞれに、死所を得たるを喜び、これぞ武門の面目。」と——(一)と同じくチェーンを行ふ。

○大將答力あり——出會つた二人は兩手を腰にとり、左足から四回スタンプする。

七

○兩將書食共にして、なほも盡きせぬ物語。「我に愛する良馬あり——(一)と同じくチェーンを行ふ。

○今日の記念に——足踏しながら四回拍手する。

○献すべし——兩手をとりにあげる。

八

第二編 各 論

○厚意謝するに餘りあり。軍のおきてにしたがひて、他日我が手に受領せば——(一)と同じくチェーンを行ふ。

○長くいたはり養はん——出會つた二人は兩手を取り、左へ一廻りする。

九

○「さらば」と握手ぬんごろに、別れて行くや右左。砲音絶えし砲臺に——(一)と同じくチェーンを行ふ。

○ひらめき立てり——拍手しながら圓心へ進む。

○日の御旗——兩手を斜上に擧げる。

(三)注意

イ、平易な動作により、團體的行動に馴れさせ、兩將軍の歴史的會見の情況を偲ばせて、國民的思想を養ふ。  
ロ、チェーンを行ふ時は、二呼間に必ず一人の手をとること。

海

(一)準備 七、八人を一組にして直線に並べ、肩の高さに手をつながせる。

(二)動作





○松原——左足を前に出し、右足尖を左踵に引き寄せて、左足を軽く踏む。この間に連手を前から上に柔らかに上げ、胸を張る。

○遠く——右足から後へ前と同じ動作をする。

○消ゆるところ、白帆の影は浮かぶ——「松原遠く、」と同じ動作を三回繰返す。

○干網——手を離して右を向き、三呼間に一回のポルカステップを行ふ。即ち(1)で左足を前にステップし、右足をクローズする。(2)で左足を更に前にステップし、(3)で左足でホップし、右膝を屈けて前に挙げると同時に、両手を側に挙げておろす。

○濱に高くして、かもめは低く波に飛ぶ——「干網」の動作を七回繰返しながら、先頭生について左に小圓を作りつゝ元の一直線となる。

○見よ——左足から一呼間に二歩のランニングステップで前に六歩進むと同時に連手を次第に上にあげる。

○晝のうみ——同じランニングステップで左足から五歩後退し、連手を次第に下ろし、右足を静かに左足に引寄せながら、連手を肩より稍々高くあげる。

○見よ 晝の海——「見よ、晝の海」に同じ動作を繰返す。

一一

○島山閣に著き、あたり漁火光淡し——「松原遠く、消ゆるところ、白帆の影は浮かぶ」に同じ動作をする。  
○寄る波岸に——左足からギャロップピングステップを三回し、次に左足を左に出して之に體重をかけ、右膝を屈  
げて前に擧げる。

○緩くして——「寄る波岸に」と同じ動作を右に行ふ。

○浦風軽く沙吹く。「寄る波岸に緩くして」と同じ動作を繰返す。

○見よ夜の海、見よ夜の海——(一)の「見よ晝の海、見よ晝の海。」と同じ動作をする。

(三)注意

波の動作を柔らかに行はせて、その感じを出させる。

朧 月 夜

(一)準備 全生のまを内圓に、他生を外圓にした、内面向の二重圓を作らせる。

(二)動作

一

○菜の花畠に——兩手を側から靜かに上に擧げながら、其の場で左足から左へ一廻りする。

○入日薄れ——圓心に向き、兩手を靜かに前から下ろす。



○見わたす山の端、霞ふかし——右廻りに「菜の花島に入日薄れ」と同じ動作をする。

○春風そよふく空を見れば——互に手をつなぎ、右上方を眺めながら、軽く前後に振る。

○夕月かかりて——内圓へ左足から四歩前進すると同時に、連手を静かに上にあげ、右足に體重をかけて體をそらす。

○にほひ——連手を下ろしながら、左足から三步後退する。

○淡し——右足を左足に揃へ、兩手を體前から交叉して上に舉げ、更に側に下ろして手をつなぐ。

一一

○里わの灯影も、森の色も——互に手をつないだ儘、外圓の者は左足から左へ、内圓の者は右足から右へ、ワルツステップで、各々圓周上を進む。

○田中の小路を、たどる人も——互に手をつなぎ換へて圓の外向となり、前と同方向にワルツステップで行進する。

○蛙のなくねも——外圓生は、右足を内圓へ一步踏み出し、これに體重を移しながら、右手を耳の側にして次第に蹲む。

内圓生は、左足を後に引き、體重をこれにかけながら、左手を耳の側にして體を後に倒す。

○かねの音も——外圓生は靜かに立ち上り、次に體を後に倒しながら、右手と左手を取りかへて、靜かに物を聽く姿をする。

内圓生は、右足に體重を移して蹲み、手を靜かにかへる。

○さながら霞める——内圓生は立ち上り内外圓生共右足を後に引きながら、右手を大きく前から後に廻し、次に左手を廻すと同時に左足を後に引く。

○朧月夜——外圓生は、左足を圓内へ踏み出し、互に手をつないで體を後にそらす。内圓生は、左足を圓心に向つて踏み出し、體重をこれに移して立ち、兩手を體前で交叉しながら上に舉げ、掌を向合せて之を見る。

(三)注意

輕快優美な動作で行ひ、田舎の靜かな氣分を味はせる。

故郷

(一)準備 一列圓形に並べ、圓心に向はせる。

(二)動作

○兔——左に向き、圓周に沿うて左足から三步進みながら、兩手を體前で交叉して前から上にあげ、右手を側に



おろし、右足を後にあげる。

○追ひしかの山、小鮒釣りし——「兔」の動作を右足から交互に五回繰返す。

○かの川——左足を右足の前から交叉し、兩足尖で一廻りして靜かに手をつなぐ。

○夢は——連手のまゝ、圓周に沿うて左へ左足からツーステップを行ひ、次に右膝を屈けて靜かに前にあげる。

○今もめぐりて——前の動作を右足から交互に三回行ふ。

○忘れ——左足から圓心へ三步進み、右足を後にあげると同時に、連手を前から上にあげて、胸をそらす。

○がたき——連手をおろしながら、右足から三步後に退き、左膝を軽く屈けて前にあげる。

○故郷——「忘れ」と同じ動作を行ひ、右足を後におろし、軽く膝を屈けて、體を少し前に倒し、手を側におろす。

二

○如何にゐます父母、恙なしや——左手の掌を上にして側に、右手は掌を下にして前にし、左足から三呼間に  
バランスステップし、この動作を交互に行ひ、圓周に沿うて左へ進む。

○友がき——(一)の「かの川」と同じ。

○雨に風につけても——(一)の「夢は今もめぐりて」と同じ。

○思ひ出づる故郷——(一)の「忘れがたき故郷」と同じ。

三

○ ころろ — 左足から左へ、圓周に沿うてツイステップを行ひ、次に右膝を屈げて前にあげながら、右手の掌を下にして前にあげ、次第に掌を上に向けて側に開く。

○ ざしを — 右手をおろしながら「ころろ」の動作を右足から反對に行ふ。

○ はたして、いつの日にか — 前の「ころろざしを」の動作を右足から交互に行ふ。

○ 歸らん — (一)の「かの川、」と同じ。

○ 山はあをき故郷 — (一)の「夢は今もめぐりて、」と同じ。

○ 水は清き故郷 — (一)の「忘れがたき故郷。」と同じ。「と」で右足を後におろすと同時に、靜かにかがんで手をおろす。

(三) 注意

輕快優美な協同的動作に依つて、思出多い幼時を追憶させ、郷土愛の心情を養ふ。

春 風

(一) 準備 一列圓形の内面向に並べ、互に連手させる。

(二) 動作







前奏 一小節——四小節（十六呼間）

右斜上を眺めながら、連手を前後に八回振る。

○吹けそよそよ——兩手を上にあげ、軟かに左になびかせながら左足を側に出し、次に右足をその前に交叉する。更に體を左に屈げながら左足を側に出し、右足を左足の後に交叉して、膝を軽く屈げる。

○吹け春風よ。ふけ春風、ふけ柳の糸に——右足から、前と同じ動作を交互に七回行ふ。

○吹けよ——圓周に沿うて、左足から左へ三步進む間に、兩手を體前で交叉して前から上にあげ、側からおろし、右足を後にあげてホップし、兩手の掌を下にして左側に舉げる。

○吹け、春風よ。やよ春風、ふけそよそよ吹け——左足から前と同じ動作を交互に行ふ。

○よ——足踏しながら、圓心に向ひ、靜かに手をつなぐ。

二

間奏。前奏と同じ。

○やよ、吹くなよ風——互に手をつないで左へ三步進み、左足でホップすると同時に、右膝を屈げて前に舉げ、次に右足から同じ動作をする。

○この庭に——「やよ、吹くなよ風。」と同じ。



○風吹くなよ風、櫻の枝に——次に圓の外向となつて、「やよ吹くなよ風、この庭に。」の動作を繰返す。

○吹くな風この庭に、やよ吹くなよ風、吹くなよ風よ——(一)の「吹けよ吹け春風よ。やよ春風吹け、そよそよ吹けよ。」と同じ。

(三)注意

春風の情趣を想起しつゝ、輕快優美な動作を行ふ。

幼き頃の思出

(一)準備 二列圓形に並べ、内外圓生互に向き合はせる。

(二)動作

一

前奏 一小節——四小節(十二呼間)

互に左手を取つて、右足からバランスステップを前後に二回行ふ。

○去にし秋——二人は圓の中心を左にして圓周上に立ち、外圓生の右肩で右手をとり、内圓生の體前で左手をとり右足から三步前進し、次に左足をストレッチする。

○姉妹、茸狩り遊びしかの松山——次に前の動作を左足から交互に行ふ。



○幼き頃の思出は——右足から圓周に沿うて右へバックステップで進み最後に足を揃へる。

○あゝ美はしき——「あゝうる」で外圓生は右手を上にあげ、左手を腰にとつて、右足から外側へバランスステップをする。内圓生は、左手を上にあげ、右手を腰に取り、内側へバランスステップをする。「はしき」で内外圓生互に向き合ひ、手をかへて、内圓生は右に、外圓生は左に、前の動作をする。

○夢と——前の「あゝ、うる」に同じ。

○残る——内外圓生互に向き合つて、外圓生は左足を側に出し、右足を後に引いてカーツイをする。内圓生は、右足を側に出し、左足を引いてカーツイする。

一一

○月の夜、友追ひて——内外圓生向き合ひ、互に右を通つて、右足から三步先進しながら、右掌を上にして側に、左掌を下にして前にあげ、次に左足をストレッチする。更に左足から三步前進しながら、左手を側に右手を前にかへ右足をストレッチする。

○影ふみ遊びしかの砂山——「月の夜友追ひて、」の動作を續けて行ひ、元の位置にかへつて、終りに二人で圓周に向き、外圓生の肩で右手を取り、内圓生の體前で左手を取る。

○幼き頃の思出は——(一)の「幼き頃の思出は、」の動作に同じ。



○あゝ懐かしや胸に還る——(一)の「あゝ美はしき夢と残る。」の動作に同じ。

三

○母の聲——各々右足から三步進み、左足をストレッチしながら互に左手を取り、右手を側から上にあげる。

○子守歌——左足から三步進む間に、右手の掌を上向にして側に下ろし、之を見ながら右足でストレッチする。

○とはにぞ忘れじ——前の「母の聲」と同じ動作をする。

○かの揺籠——前の「子守歌」と同じ動作を行ひ、最後に外圓生の肩で右手をとり、内圓生の體前で左手をとつ

て右足でストレッチする。

○幼き頃の思出は——(一)の「幼き頃の思出は」と同じ。

○あゝふる里に、心運ぶ——「あゝ美はしき夢と残る。」と同じ。

(三)注意

イ、二人の共同的動作によつて、幼き頃の思出の數々を輕快に行ひ、懷舊の情を喚起させる。

ロ、互に物語りするやうに行はせる。

荒城の月

(一)準備 適當な距離間隔を以て方形に開かせる。



(二)動作

一

前奏 一小節——四小節(十六呼間)

靜かに聽く。

○春高——兩手を靜かに前から上にあげながら、右足から三步前に進み、左足を後にあげると同時に左手を側に

おろして左方を見る。

○樓の——靜かに右手を側に、左手を上にあげて、頭を右に廻しながら左足を後におろし、次に右足を後に引く。

○花の宴——左足を後にひき、右足を左足に交叉して兩足尖で廻轉しながら、兩手をおろし、更に體前で交叉さ

せて上にあげ、次に左足を後にひき、右膝を屈けて前にあげながら兩手を左側におろす。

○めぐる——右手を側に開くと同時に右足を後に引き、次に左足を右足に交叉し、右手を上左手を前にしながら

ら兩足尖で廻轉する。

○杯——「めぐる」と同じ動作を繰返し、最後に手を左右に開く。

○かげさし——右足を側に出すと同時に右手を上にあげ、左手を前に出し、次に左足を右足の前に深く交叉して

兩膝を屈げ、左肩越に後を見る。



○て——「かげさし」と同じ動作を左に行ふ。

○千代の——右足から右斜前に三步進み、左足を後にあげる。この時両手を同方向に前から上を通つて左斜下に大きく廻して右斜前にあげる。

○松ヶ枝——左足を後におろし、軽く膝を屈けて體を後に倒すと同時に、両手を左下へおろす。次に右足を後に引き、膝を屈けて體を後に倒すと同時に、両手を左斜上から右下へおろす。

○分け出でし——「千代の松ヶ枝」の動作を左足から反対側に行ふ。

○昔の——両手をそのまゝ、右斜上を見ながら右足から斜前に三步進み、左足を軽く後にあげると同時に右手を斜上にあげる。

○光——両手を右斜下にしながら、前と同じ動作を反対に行ふ。

○今いづこ——右足から三步後にさがり、體重を右足に移しながら両手を次第に側から上にあげ、體を後に倒す。次に「こ」で靜かに體重を左足に移し、體を左斜前に倒す。

二

間奏 一小節(四呼間)

體重を右足にかへしながら、體を次第に後に倒す。



二小節——三小節（八呼間）

體重を左足に移し、右足を左足の前に深く交叉して次第に兩手を前から右へ移しながら靜かにかゝむ。

○秋陣——靜かに立ち上りながら、兩手を右から廻して頭上にあげ、左手を側におろし之を眺めて左足を後にあげる。

○營の——そのまゝの姿勢で、左足から三步前に進む。

○霜の色——「霜の」で、體重を右足に移して膝をまげ、右手を側に左手を前にする。次に左足を後に引き、膝を屈げ兩手をかへる。更に右足をひいて同じ動作を繰返す。

○鳴き行く——左上を見ながら、左足を右足の前から右に交叉し、體重を移して膝を屈げ、兩手を左にする。次に膝を伸して右足を右にステップし、兩手を右に移す。

○雁の數見せて——「鳴き行く」の動作を二回續けて行ひ、次に「て」は前と同じく左足を前に交叉し、兩手を靜かに側に開く。

○ううる劍に——「ううる」で左足を左に出すと同時に、兩手を側にし、右足を交叉させて兩足尖で廻轉すると同時に、兩手を上にあげる。次に同じ動作を繰返し、「に」の時、體重を左足にかけ兩手を右斜下へおろす。

○照りそひし——左上方を眺めながら、右足から六歩で其の場を左に廻り、左足に體重をかけて止り、兩手を左下に移す。

○昔の光今いづこ——一番に同じ。

(三)注意

イ、輕快優美な動作を行ふ。

ロ、動作から動作へ移る所を滑らかに行はせる。

胡蝶

(一)準備 自由に配列させる。

(二)動作

前奏 一小節(二呼間)

右足を右へステップすると同時に、兩手を右側にあげ、次に左足を右足の前に交叉しながら、兩膝を軽く屈げ、兩手を靜かに反對側に移す。

二小節(二呼間) 一小節の動作を左へ行ふ。

三・四小節(四呼間) 一・二小節の動作を繰返す。





○春日影——右手を斜前に、左手を斜後に舉げ、右足から小走りに右斜前に三步進み、次に右足でホップし、左膝を屈げて前に舉げる。

○うらうらと——前の動作を左足から行ふ。

○のどけき日和——左手を斜前に、右手を斜後にして、左斜前に、「春日影うらうらと」と同じ動作を行ふ。

○菜の花の色榮えて咲きたるあたり——「春日影うらうらと、のどけき日和。」と同じ。

○あれよ胡蝶——右足を右斜前に出すと同時に両手を前下にし、次に左足を右足の前に出し、右足を後にあげる。と同時に右手を斜上に、左手を斜下にひらく。

○ひらひら——右足を後におろして、軽く兩膝を屈げながら、左足を之に揃へると同時に、両手を軽く上下に動かす。

○あれよ胡蝶、飛ぶよ——「あれよ胡蝶、ひらく」の動作を左足から反對側に行ふ。

○ひらひらひらひら——手を側にあげて、靜かに上下に動かしながら、踵をあげて十二歩で其の場を左へ一廻りする。

○飛ぶよ——左足から三步前に進むと同時に、手を下から交叉しながら上にあげ、體重を左足にかけて、右足を



第二編 各 論

後にあげる。

後奏 一小節——二小節

両手を側から左斜下におろしながら、右足尖を左踵にひきよせる。

二

○花筐、右足から小走りに三步前進しながら、両手を側から前に、次に側に開き、左足を後にあげて、右足で跳ぶ。

○手に持ちて、つれだつ童、香に匂ふつぼ草摘み居るところ、左足から交互に、「花筐」と同じ動作をしながら自由の方向にとんでいく。

○あれよ胡蝶、ひらく、あれよ胡蝶、飛ぶよ。ひらくひらく飛ぶよ。(一)に同じ。

後奏 一小節——二小節

両手を側から下ろしながら右足を次第におろし、膝を屈げて腰をおろす。

(三)注意

イ、胡蝶の舞ふ様に軽快な動作で行ふ。

ロ、跳躍の動作の中にも、ごく静かな軽い気分を出させる。



## 菊

(一)準備 一列圓形内面向きに並べ、二の番號をつける。

### (二)動作

○庭の千草も、互に手をつなぎ、次のやうにして、圓周に沿うて右へ動作する。

右足を右へステップし、左膝を屈げて前にあげ、次に左足から三步前進し、右膝を屈げて前にあげる。次に、手を離して右足尖を圓の外向きにステップし、左膝を屈げて前にあげると同時に外向きとなつて、再び手をつなぎ。

○むしのねも、左足を前へステップし、右膝を屈げて前にあげ、次に右足から三步前進し、左膝を屈げて前にあげる。次に手を離して左足尖を圓の内向きにステップし、右膝を屈げて前にあげながら、圓の内向きとなり、再び手をつなぎ。

○かれて、さびしくなりにけり。「庭の千草も、むしのねも」と同じ動作をする。

○あゝ、しらぎく、「あゝ」で右足を圓内にステップし、左足を後にあげると同時に手を上にあげ、次に、「し」で手を靜かにおろすと同時に、左足を後に踏みつけ、右膝を屈げて前にあげる。更に「らぎ」で右足から圓内へ輕いランニングステップを四歩行ひ、「く」で手を離し右足を左足の側に出して、廻れ左をし、次に左足を後に引き、

両手を體前で交叉して頭上に丸くあげ、右膝を屈げて前にあげる。

○嗚呼、白菊、前の「あゝ、しらぎく」の動作に同じ。但し、圓の外向きに行ひ、終りに内向きとなり、最後に、手を離して側から上にあげ、右膝を屈げて前にあげる。

○ひとりおかれて、右足から右へバランスしながら、體を手を右にまげ、次に左で同じやうに行ふ。

○さきにけり。前と同じ動作を再び右に行ひ、次に、兩足を揃へ、兩手を側まで下ろして連手し、終りに右足尖を左踵の後につける。

二

○露にたわむや、菊の花、しもにおごるや、きくの花、(一)の「庭の千草も、むしのねも、かれてさびしくなりにけり」と同じ動作をする。

○あゝ、あはれく、「あゝ」の時右足を右へステップをし、兩手を掌を下にして右にあげ、左足を後にあげる。「あ」で左足をおろし、右膝を屈げてあげると同時に、兩手を左下に動かし、「はれあ」で右足から左、右、左、と踏みつゝ、其の場で右へ一廻りしながら、兩手を上にあげる。「はれ」で右足を側に出し、左膝を屈げてあげると同時に、兩手を靜かに右下におろす。

○あゝ白菊、「あゝ、あはれく」の動作を反對に行ふ。